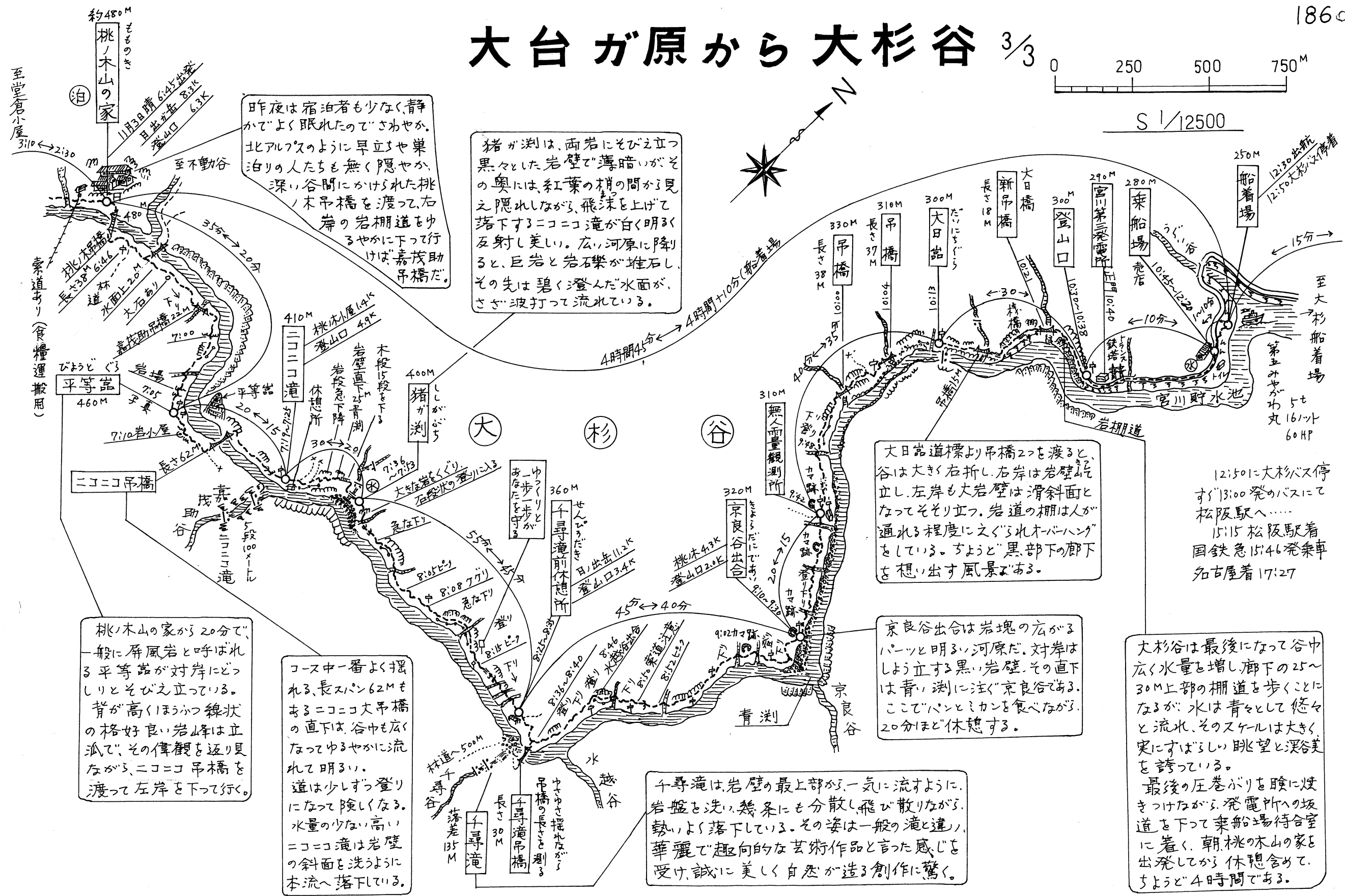
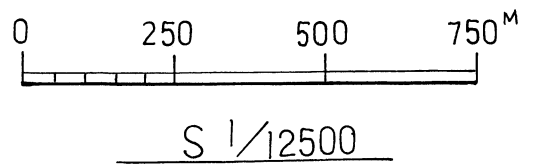


大台ガ原から大杉谷 $\frac{3}{3}$



昨夜は宿泊者も少なく、静かてよく眠れたので、さあやが。北アルプスのように早立ちや巣泊りの人たちも無く、隠やか、深い谷間にかげられた桃ノ木吊橋を渡って、右岸の岩棚道をゆるやかに下って行けば、嘉茂助吊橋だ。

猪ガ沢は、両岩にそびえ立つ黒々とした岩壁で、薄暗いその奥には、紅葉の梢の間から見え隠れしながら、飛沫を上げて落下するニコニコ滝が白く明るく反射し美しい。広い河原に降りると、巨岩と岩石が堆石し、その先は碧く澄んだ水面が、さざ波打って流れている。

大日岩道標より吊橋2つを渡ると、谷は大きく右折し、右岸は岩壁が立ち、左岸も大岩壁は滑斜面となつてそそり立つ。岩道の棚は人が通れる程度にえぐられオーバーハングをしている。ちょうど黒部下の廊下を想い出す風景がある。

12:50に大杉バス停
すぐ13:00発のバスにて
松阪駅へ……
15:15 松阪駅着
国鉄急1546発乗車
名古屋着 17:27

桃ノ木山の家から20分で、一般に屏風岩と呼ばれる平等岩が対岸にどっしりとそびえ立っている。背が高くほうかつ線状の格好良い岩山は立派で、その偉観を返り見ながら、ニコニコ吊橋を渡って左岸を下って行く。

コース中一番よく揺れる、長さ62Mもあるニコニコ大吊橋の直下は、谷中も広くなつてゆるやかに流れて明るい。道は少しずつ登りになって険しくなる。水量の少ない高いニコニコ滝は岩壁の斜面を洗うように本流へ落下している。

千尋滝は、岩壁の最上部から一気に流すように、岩盤を洗い、幾条にも分散し、飛び散りながら、勢いよく落下している。その姿は一般の滝と違い、華麗で趣向的な芸術作品といった感じを受け、誠に美しく自然が造る創作に驚く。

京良谷出合は岩塊の広がるパースと明るい河原だ。対岸はしお立つ黒い岩壁、その直下は青い沢に注ぐ京良谷である。ここでパンとミカンを食べながら、20分ほど休憩する。

大杉谷は最後になって谷中広く水量が増し、廊下の25~30M上部の棚道を歩くことになるが、水は青々として悠々と流れ、そのスケールは大きく、実にすばらしい眺望と渓谷美を誇っている。最後の圧巻バリを睨み、焚きつけながら、発電所への坂道を下って乗船場待合室に着く。朝、桃ノ木山の家を出発してから休憩含めて、ちょうど4時間である。